

大津百町瓦版

大津・町家・まちなか・いろいろ情報

夏季号 [No. 36]

2018年 4月

発行 大津の町家を考える会

大津市中央1丁目8-13

TEL・FAX 077-527-3636

Email: otsu.machiya@gmail.com



明治の近代建築 明治44年(1911)南郷洗堰監視所

琵琶湖の洪水を防いだ南郷洗堰

近代建築遺産、南郷洗堰監視所が残されています。「水のみぐみ館アクア琵琶」に行ってきました。

琵琶湖には一級河川も含め四百近い河川が流れ込んでいます。出口は瀬田川だけです。このため琵琶湖周辺は古来から絶えず洪水の被害を受けてきました。その大きな原因は瀬田川の唐橋から下流にある大日山が大きく瀬田川に張り出して流れが狭められていること。さらにその先で信楽からの大戸川との合流地点で砂礫が累積することが原因であることは早くから分かっていました。ところが瀬田唐橋が落とされた場合、浅瀬を利用して徒歩で渡河できること。流れを良くすると湖岸に築かれた彦根城や膳所城の防衛機能が失われることもあるので、幕府は大戸川が合流する浅瀬には「朝廷に献上する魚を取るヤナ場があること」を盾に戦略上の理由から改良工事を許さなかったそうです。

しかし、大きな被害を出した明治二九年の大洪水の後、淀川、宇治川の河川近代化改修と合わせ南郷に可動堰が造られ事になりました。明治三年から工事が開始され、明治三八年全長一七・七一mレンガ・石造りで日本一の可動堰が完成しました。完成した水門は三二門あって開閉は長さ四・五m、一辺二四cmの角材を一本一本人力で一門に一五本、一七本をはめ込み、三二門の可動堰を全部閉じるのには丸二日、全開には丸一日もかかったそうです。

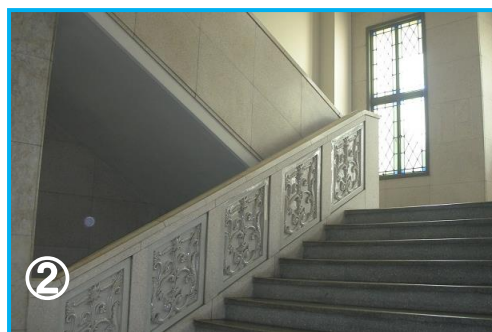
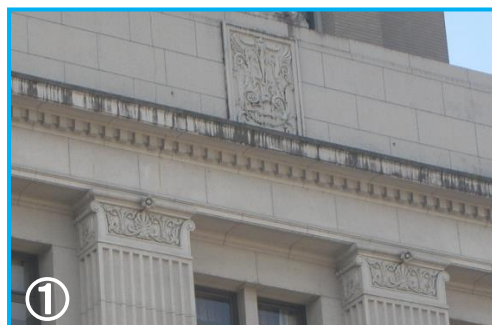
出来た当初は地元の住民だけが可動堰を通行出来たそうです。現在の瀬田川洗堰の少し上流の左右に旧南郷可動堰が一部残されています。また「水のみぐみ館アクア琵琶」には当時の可動堰の開閉の様子が分かる展示もされ、旧可動堰部分は普段は立入禁止ですが、テーブル・イスも置かれており、月に一度第四土曜日には「洗堰レトロカフェ」としてオープンして投入されていた角材の現物も見ることが出来ます。誰でも自由に利用できるので、これからのシーズンは是非出かけてみて下さい。

美しい大津の近代建築

昨年10月、「大津の町家を考える会」が主催している講座『萬塾』で「大津の近代建築を巡る」と題して、京都工芸繊維大学の石田潤一郎教授に講演をお願いしました。その講演のなかで、明治から昭和前半にかけての近代の公共建築や住宅建築をパワーポイントで写真を見ながらお話を聞かせて頂きました。今号では講座に参加されなかった方々に大津にある近代建築を改めて紹介させていただきます。掲載の建物は中心市街地活性化協議会が発行した「大津百町まち遺産」マップに掲載されています。どれも素晴らしい建築物です是非お出掛けになって見学されることをお勧めします。



皆さんご存知の**滋賀県庁本館**、昭和14年（1939）鉄筋を50トンも使い戦前期最後の大建築であった。①の正面上部の意匠や、②正面玄関内部の階段部分には古典様式を自在に変形させるなど、工夫された美しさは見事です。



まもなく解体される武徳殿



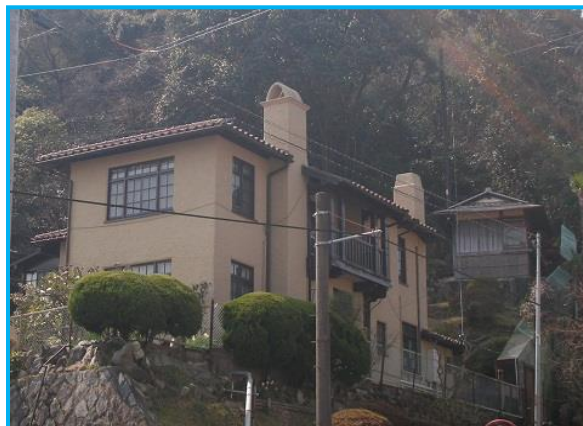
県庁西側に建つ**武徳殿**、残念ながらこの春解体されます。昭和12年（1937）旧琵琶湖ホテル設計した岡田信一郎事務所に勤めていた三井道男の設計。鉄筋コンクリート造・鉄骨造によって和風の意匠を追及しています。一階は事務所や応接室、二階に道場がある。



浜通りにある**石田歯科医院**、昭和12年（1937）長等の大工木村政吉の設計・建築、大津市中心部にあり奥は平屋の和風建築で通りに面した所は洋風の和洋並立住居。2階妻側にある丸窓のステンドガラスの帆船模様は印象的で内側から見てみたくくなります。



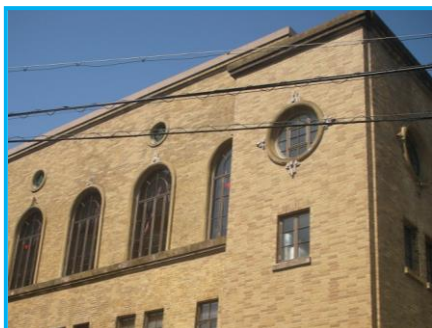
美しい大津の近代建築



逢坂国道1号線沿いにある宮本家住宅、昭和5年(1930)ヴォーリス建築事務所の設計、木造二階建の洋館建築、高台にあって大津の町を一望する。建築当初

は町家が続く美しい大津の町が見られたことでしょう。敷地内山手には茶室があります。

大津市旧公会堂、昭和9年(1934)丸窓に縦長の窓、半円形のアーチ窓デザインに工夫が見られます。外壁の縦線模様のタイルは昭和初期に流行したそうです。平成15年地域住民から起こった保存運動を受けて、建築当時の様式をそのままに整備され交流・商業施設として利用されています。



大津では現在幾つもの民家を含めた建築物が、国登録有形文化財としての指定を受けていますが、石田潤一郎教授の講演に出てきた近代建築としては湖岸にあるもので、旧琵琶湖ホテル(大蔵省が融資して全国に15件の国際ホテルを建設したその一つ[昭和9年1934])。トップページの南郷洗堰監視所(明治44年1911)。右写真の第三高短艇部艇庫[大正元年1912]日本で最古のボート庫)。ヴォーリス設計が多い教会教会建築では駅前30m道路に面した「日本基督教団大津教会」[昭和3年1928]、堅田にある「日本基督教団堅田教会」[昭和5年1930]、石山にある「日本基督教団石山教会」[昭和29年1954]の他近代建築の「日本聖公会大津聖マリア教会」[昭和6年1931]、平野馬場にある「カトリック大津教会」[昭和15年1940]等が残されています。他には比叡山鉄道ケーブルの坂本駅舎と延暦寺駅舎いずれも[昭和2年1927]と懐かしい近代建築物がまだまだあります。



日本最古の第三高等学校短艇部艇庫

日本最古の第三高等学校短艇部艇庫

まちづくり「大津百町館」から見える 商店街&まちなか

「大津の町家を考える会」が拠点を大津百町館に移して16年。商店街とまちなかを見てきました。

16年前本当になかまち商店街は寂しく、新規にオープンするお店はなくここも閉店あそこも閉店と空き店舗が増えるばかりでした。様々な団体の方々がなんとか活気ある商店街&まちなかに出来ないかという工夫されておられました。「大津の町家を考える会」もまちなかに活気を取り戻そうと、商店街で「まちなか博覧会」と銘うって成安造形大等の学生達の協力を受け、空き店舗を利用しての写真展、おじぞう様展、懐かしいチヤンバラ映画上映会、コンサート、餅つき会等々3年に亘って開催するなどしてきました。

面白くなって来たかな？

でも、ここ4、5年を見ていると商店街を通る人は着実に増えて来ています。これは戸建て住宅が減りマンションが増えて来たことにもあるのかも知れません。以前は商店街を歩く人は圧倒的に高齢者が多かったのですが、最近は小さな子どもを連れた若い世帯の人が増えています。もう一つ以前には感じられなかったことです。外国の方が多く歩いておられます。しかもその人たちは通りすがりの観光の方ではなく、明らかに居住されて居られる雰囲気を感じるのです。まちなかに多様性が生まれ面白くなって来たかなと感じます。

元気になる事は？

3年前、商店街には商店をと「百町物語」がスタートして、中町商店街の空き店舗を活用するなど積極的な出店活動を始められました。この事業に既存の商店も協力するなどして徐々に商店街が元気になっています。

まちなか情報一杯



こうしたまちなかの様子は、商店街やまちなかで活動している様々なグループや団体が『ゆうゆうかんPRESS』『百町新聞』『まちづくり中央』等々次々と情報誌を発行されて、これらの情報からもまちなかが動いている！元気になるってきている！と分かるようになっていきます。あとは継続あるのみですね。【会員 雨森】

『Lamp x Paperi Brocante』 「若者骨董の店？」

大津市中央2丁目6-20
TEL 050-3700-0068



「一八時です。オープンは、水・木・土・日 10時〜16時、金・日 10時〜18時です。」
色にしたりしたものを買ったの売ったのだそうです。どんな人が買うんでしょうね。その後、大津の町家にお店をオープンされました。何の店かと聞かれたら、私は「若者骨董の店」というのが一番わかりやすいと思います。京都でもこの種のお店が増えています。置いてあるものは、紙や金属の古いもの、秤とかハサミとか瓶とかの古いものです。それほど値段も高くないので、ひやかしに行くといいたと思います。オープンは、水・木・土・日 10時〜16時、金・日 10時〜18時です。

気になるお店紹介

旧大間町の中町通の町家に「若者骨董の店」ができました。店主は宇野さんという女性で草津の方です。Lamp はランプ、Paperi はペーパー、Brocante ブロカントは、ちよつとした骨董という意味だそうです。宇野さんは、二五年間ほど大津市の幼稚園で教諭をやっておられました。辞めた後、手作りの作品をネットで販売していたそうです。どんなものを作っていたかという、古い紙が好きで、わざわざ紙を古いヨーロッパの紙のように印刷したり、コーヒーで染めて茶色にしたりしたものを買ったの売ったのだそうです。どんな人が買うんでしょうね。その後、大津の町家にお店をオープンされました。何の店かと聞かれたら、私は「若者骨董の店」というのが一番わかりやすいと思います。京都でもこの種のお店が増えています。置いてあるものは、紙や金属の古いもの、秤とかハサミとか瓶とかの古いものです。それほど値段も高くないので、ひやかしに行くといいたと思います。オープンは、水・木・土・日 10時〜16時、金・日 10時〜18時です。

編集後記

この春季号もニュースが無く最後まで何を掲載しようかと考えあぐねていました。

以前はこの『大津百町版』が地域情報発信源と自負していましたが、いまや地域情報誌が三誌も発行されています。これからは「大津の町家を考える会」の特徴・個性を出さないと…。【K. A】